

〔熱帯果樹複合経営を実現する効率的栽培技術の開発〕

さらなる新規有望品目の検討

～小笠原諸島における「ヒラミレモン」の開花特性および収穫適期～

池田行謙

(小笠原農セ)

【要 約】「ヒラミレモン」の収穫時期は、果実横径が横径 28mm を上回る 7 月下旬からクエン酸含量が 5 % を上回る 9 月上旬である。この期間において、着色果もしくは浮皮果の発生は認められない。

【目 的】

小笠原諸島における「ヒラミレモン」(通称: シークワサー) は、母島を中心に数戸の生産者が栽培しており、出荷量は少ないが、「菊池レモン」とは食味や外観が異なる貴重な香酸カンキツ類として主に島内の直売所に出荷されている。小笠原の「ヒラミレモン」に関しては、過去、基礎的な調査が未実施であったことから、本試験で詳細を明らかにする。

【方 法】

露地栽培の「ヒラミレモン」11 年生 3 樹を供試した。開花期調査は、(独法) 農研機構果樹研究所の調査方法を準用した。果実肥大は、樹冠赤道面の果実を 1 樹あたり 5 果供試し、2015 年 7 月 10 日から 11 月 7 日まで 10 日間隔で調査した。果実品質は、8 月 31 日から 10 日間隔で調査した。収穫適期の評価基準は、沖縄県における「ヒラミレモン」の出荷基準(果実横径 28mm 以上 38mm 以下、クエン酸含量 5 % 以上)を準用した。

【成果の概要】

1. 開花期調査: 発芽期は 3 月 6 日で、「菊池レモン」と比べて 31 日遅かった。開花始期は 3 月 24 日、開花盛期は 4 月 2 日、開花終期は 4 月 7 日で、「菊池レモン」と比べて各々 38 日、32 日、20 日遅かった(表 1)。
2. 果実肥大: 7 月上旬以降、継時的に肥大した。横径が基準値 28mm を超えた調査日は 7 月 30 日(28.6mm)で、基準値 38mm を超える直前の調査日は、9 月 18 日(36.8mm)であった(図 1)。
3. 果汁品質: 糖度は、8 月下旬から 11 月上旬にかけて、糖度 1 未満の減糖しか認められず、ほぼ横ばいであった。クエン酸含量は、8 月下旬以降は継時的に減酸し、9 月 10 日までは基準値 5 % 以上であったが、9 月 20 日以降は 5 % 以下となった(図 2)。
4. 果皮の着色および浮皮: 果皮のカラーチャート値(以下; CC 値)は、9 月 30 日までは 0.5 で濃緑色であったが、それ以降は着色が進行し、11 月 10 日に 1.5 に達して、着色果が生じた。浮皮の発生は、9 月 30 日までは 0 であったが、10 月 20 日以降は認められ、継時的に増加した(図 3)。
5. まとめ: 「ヒラミレモン」の収穫時期は、果実横径が横径 28mm を上回る 7 月下旬からクエン酸含量が 5 % を上回る 9 月上旬までである。この期間において、果皮色が CC 値 1.5 以上の着色果もしくは浮皮の発生は認められない。
6. 留意点: 収穫期間中にも果実肥大が急速に進んでいることから、収穫は期間内で可能な限り遅らせることは、収量を考慮した場合、経営上有利である。また、「菊池レモン」と比べて、発芽期および開花期が大幅に遅れるため、防除適期が異なることに留意する。

表1 「ヒラミレモン」の発芽および開花特性（2015年）

品種名	発芽期 ^a	開花期 ^b			自己摘心期 ^c
		始期	盛期	終期	
ヒラミレモン	3/6	3/24	4/2	4/7	3/23
(参考) 菊池レモン ^d	2/3	2/14	3/1	3/18	3/20

a) 発芽期：樹冠中央部の緑枝の芽の過半数が3mm以上伸長した日
 b) 開花始期：蕾の連続開花日，開花盛期：80%開花日，開花終期：50%落弁日
 c) 自己摘心期：新梢先端が脱落し，伸長停止した日
 d) 露地栽培の16年生のデータを参考とした

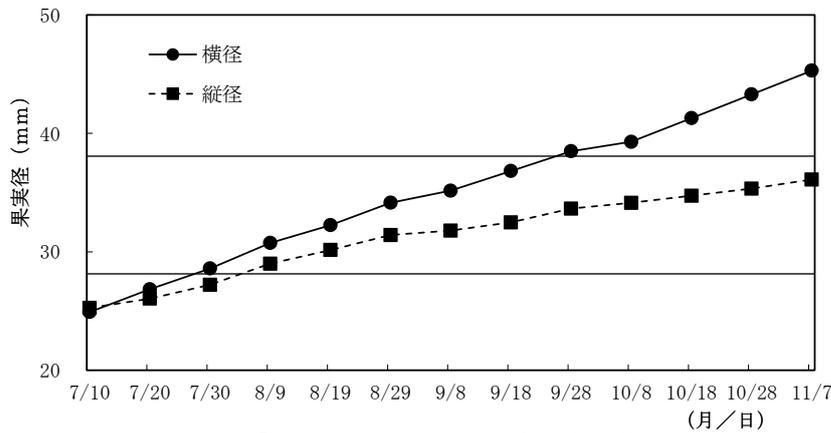


図1 「ヒラミレモン」の果実肥大の推移

(図中の横線は，出荷の目安となる果実横径28mmおよび38mmのライン)

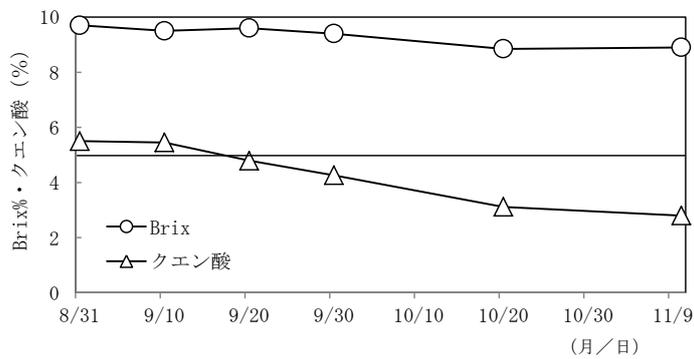


図2 「ヒラミレモン」の果汁品質の推移

(図中の横線は，出荷目安となるクエン酸5%のライン)

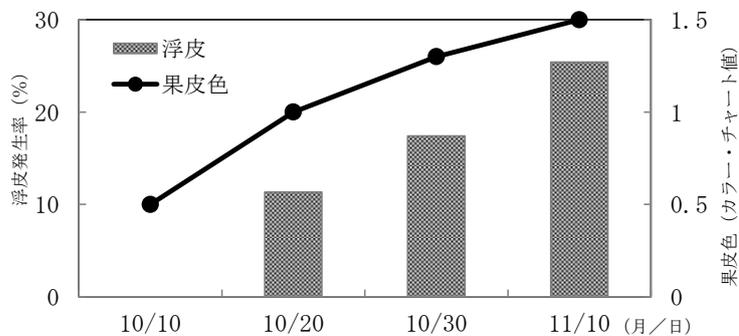


図3 「ヒラミレモン」の着色および浮皮果発生の推移 (n=100)

(着色果の判断基準は，CC値1.5以上)